

天候不順に負けない苗づくりを

いよいよ米づくり 本番!

お米づくりは毎年が一年生、天候に合わせてGO!

いよいよ米作りの本番がやつてきました。今年の春は早いのかと思つていましたが、なかなか気温が上がらず、冷たい雨が続いて桜の開花予想も狂つて、県内の花見会場では氣を揉んでいた所も多かつたようです。それにしても、2月から3月にかけてなんと様々な行事が続くのでしょうか。各団体の総会や研修会、町内会や農家組合の総会や春祭り等々次から次へと案内が舞い込み、日程が重なつたりして總てにお付き合いすることはできずに、失礼をさせていただくことも少なくありません。

また、春は入学・卒業、入社・転勤、そして定年退職というような人生の節目を迎える人も多く、身の回りにもそうした人が結構おられることがあります。

さまざまなお付き合いの合間を縫つて育苗の準備に取りかかりましたが、これまたビニール資材がネズミにやられて資材の手当てが

枚を引き受けましたが、4月22日に芽出し苗が入つて、5月10日の出荷の計画です。18日間の管理で、2・5葉、12～13枝の「商品」に仕上げなければならなりません。幸いにして20年余り失敗せずに「商品化」していますが、管理の基本にしてきたのは、「過保護にしないだけ」です。通常、綠化後はできるだけ朝早くハウスの裾を開けて、夕方も遅くまでそのままにしておくようにしています。中期以降は朝昼2回、十分に散水して水不足による葉巻きを起こさないようにします。余りにも簡単なことです、が、それをやり通せたかどうかで結果はまつたく違つたものになります。



実は昨年、耕運でも失敗をしてしまっています。耕運という極めて単純な作業で失敗するのは不思議に思われるかも知れませんが、荒代と仕上げ代の2回の代掻きをおこないますので、出来るだけ荒く耕運しました。ところが2回の代掻きをしても、前年の稻株が砕けずにそのままごろごろと残つてしまつたのです。主株の上に植えられた稻は浮き苗や転び苗になつて、植え付け精度が落ちてしまひます。我が家家の水田土壤の回復し、3・5葉で田植えが出来ましたが良い経験でした。



判読が難しい航海図のまま、今年の稻作は出航せざるを得ないようです。また中央政界も大時化にまで発展してしまうのかどうか、参議院選挙まで眼が放せません。

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

NPO法人
ミニケーションセンター
定価 100円(送料込)

もしれませんが、一タリ一の回転数耕運の時に出来るを碎くようにしていきます。

しても今年は雨ばかり乾いてくれませもあり、昨年のう溝も切つてあるの果なしです。中途き具合の田にホイラクターで入れば遭難してしまいますクローラーのトラさえはまつてしまふ位ですから。自を優先せずに天候をいつくことにしま

難しい航海図のまの稻作は出航せざいようです。またも大時化にまで発まうのかどうか、拳まで眼が放せま

らでいっしゅぼーや「品質管理だより」より抜粋

○ 加工品クレーム 昨年対比 91.7%

クレーム自体は昨年より減ってはいますが、表示内容や量目不足のクレームは増加しています。

- ① 異物は混入しない！
 - ② 表示の間違いは法律違反！
 - ③ クレーム“0”に！



肌寒かつた3月も終わり、平場では既に水稻の種まきが始まり、畦塗りも始まっています。また、山間部の雪も少なくなり水田の土が見えてきているようですが、昨年、いもち病と未熟で収穫が前年の四割程度しかなかつた（原因は晚植と6月末に続いた雨による？）標高3百メートルの圃場を見てきましたが、日陰の道路・圃場と共に残雪が60センチ位あり、5月にならないと消えない様子です。

ト ラ ク タ イ と

作業機の装着規格

トラクターや作業機の更新等で取付け方法に悩む事もほとんどなくなつた感の

Agri-s の



Vol. 6

ある最近のトラクターの作業機の取り付けは、ほとんどがクイックヒッチによる取付けになっていますが、各メーカーの特殊3Pオートヒッチにおいては、共通性はありません。但し、日農規格においては、各メーカーにおいて共通性が保たれています。

詳しく述べると、トラクターに作業機を設置するとときは、3点支持装置（3点リンク）で取付けます。これには2種類あり、日本工業規格（JIS）で定められた標準3点リンクと、日本独特の3点リンク（いわゆる特殊3点リンク）があります。標準3点リンクは世界的にも互換性があり共通で使えます。

ドライブハロー（代かきハロー）が普及し始めた頃から、作業機の装着の容易性が求められ、3点リンクのロアーリング（下側2カ所）とトップリンク（上側1カ所）に連結フレーム（カプラ）を付け、これを利用して作業機を装着するタイプが実用化されました。

しかし、メーカー各社がそれぞれ独自の構想で開発した為、自社の作業機にしか取り付けが出来ない為、農家に余分な負担を強いていました。そこで、各社に

A close-up photograph of the top of the handle, focusing on the metal cap and the two circular holes used for mounting.

写真①

共通で互換性のある『統一規格』の要望が提起され、「日農工」では、『作業機部会』と「トラクター部会」と合同で『統一規格』化を図りました。

『統一規格』の中でいう標準オートヒッチ・特殊オートヒッチとは、トラクターにオートヒッチフレーム（カプラ）を取り付け、作業機と連結するものをいいます。

しかし、PTOジョイントと作業機の連結の方法は規定されていませんでしたが、現在はジョイントを同時連結すると同時に深さオートセンサーも連結するタイプも多数あります。

標準オートヒッチには中型トラクター用に「日農工0・1形兼用（通称S型カプラ）」と大型トラクター用に「1・2形兼用（通称L型カプラ）」があります。特殊オートヒッチには「

写真②

表 I	A - 1	A - 2	B
クボタ	○小型	○	○
ヤンマー		○	○芝浦
イセキ	○		
三菱	○小型	○	○
日立・ホンダ	○小型		○

A close-up photograph showing a person's hand holding a small metal component, likely a bearing or fastener, near a blue metal structure.

写真③

トはSET位置切替機)の両方の規格で装着できます。(但し、深さオートの装着は各メーカー規格に依存するため除く。)ここで問題になるものはオートヒッチフレーム(カプラ)の接続部の強度容量です。大重量の作業機の装着でフレームの接続部の強度容量が不足すると脱着時に接続部の破損が発生しますので注意しなければなりません。ちなみに強度容量は「通称Lカプラ」、「通称Sカプラ」、「特殊オートヒッチ」の順で強度は下がります。

写真①は、大型の機械で無理な脱着を行つた作業機のヒッチブラケットの亀裂及び変形です。

亀裂は修復可能と思えましたがプレート自体が大きく歪んで作業機の脱着がスムーズにいかない為交換しました。

※※※※※※※※※※※※
ロータリー及び
ドライブハローの点検
使用説明書に基づ
いてオイル交換は行
つているでしようが
メーカーでは3百ぐ
5百時間位で推奨し
ているのでそれらに
従つて交換してください
さい。
また、爪の点検で
刃先が1／3以上摩
耗したら交換したほ
うが賢明です。耕運
精度、燃費にかなり
差があります。(写真②)
ドライブハローの
レーキの留めピンの
摩耗がある場合はピ
ンの交換が必要です。
怠ると、最悪レーキ
の脱落が発生します。
(写真③) また、メン
テを行つてきた作業
機もオイルシールの
劣化でオイル漏れがあ
れば、オイルシールの
交換が必要です。特にJAS有機認
証の検査では機械か
らのオイル漏れによ
る圃場の汚染の有無
についてもチェック
があると聞きますの
で注意が必要です。